平成23年度

事務事業評価表（平成22年度の実績評価）

記入年月日 平成 23 年 4 月 13 日

事務事業名	桜川市さくらマラソン大会事業		
政策体系上の位置付け			
行政評価施策名	19	スポーツ活動の振興	
政策名	3	豊かな心と生きがいを育む教育・文化環境づくり	
施策名	3	スポーツの活動の振興	
基本事業名	1	生涯スポーツ社会の実現	

区分	
☐ 分野別主要事業	
☐ 未来プロジェクト事業	
☐ 市長マニフェスト事業	
☐ 合併建設計画事業	
☐ 新規事業	☑ 継続事業
☑ 単独事業	☐ 補助事業

事務事業No.	33135025	
課内No.	25	
事務事業主管課		
所属部	教育委員会	
所属課	スポーツ振興課	35
課長名	細谷 重男	
所属係	スポーツ振興係	
担当者名	五十嵐 貴裕	

財務会計上の位置付け

予算科目	会計	款	項	目	事業	一般会計
	1	10	6	1	1	保健体育総務事業
法令根拠						

事業期間

- ☐ 単年度のみ
- ☑ 単年度繰返し （ 年度～ ）
- ☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）

【Do】 1．事務事業の現状把握

期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入

事務事業の概要（事務事業の内容、担当者が行う業務の内容、手順、事業費の内訳等。期間限定複数年度事業は全体像を記述）

マラソンを通じて、市民のスポーツ意識の高揚と健康増進、体力の向上を図るとともに、市民並びに参加者の交流を図ることを目的とした大会として行われている。毎年3月に、桜川市総合運動公園にて開催。市広報、ホームページ等にて参加者を募集。親子の部（1．2Km）、小学生の部（1．6Km）、中学生の部（3Km）、一般の部（5Km・10Km）25種目の表彰。タイム計測や順位についてはRCチップにて行っている。大会は、体育指導員、体育協会、スポーツ少年団、警察、交通安全協会等の協力をいただき運営されている。

（職員の業務）・協力団体との大会打合せ・参加者募集・参加者取りまとめ・大会要項冊子作成・委託契約・コースセッティング（RCチップによるタイム計測、記録証発行、賞状発行等）・参加者へゼッケン、RCチップの配布、・大会当日の大会運営

（事業費の内容）・報償費（謝礼、メダル代）・需用費（食料費、消耗品費）・役務費（通信運搬費）・委託料

（1） 事務事業の目的

		⇒			単位
①手段（22年度 実際に行った主な活動）			⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）		単位
大会のお知らせ作成、広報誌、インターネット、新聞等による参加者募集案内、参加者受付、各協力団体への説明会、記録計測の委託契約、警察署への各種申請、コース・園内準備等。		⇒	ア	開催回数	回
			イ	PR回数	回
			ウ	協力団体説明会回数	回
			エ		
② 対象（誰、何を対象にしているのか）			⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）		単位
市民及び一般参加者		⇒	ア	常住人口（10／1）	人
			イ	市民参加者	人
			ウ	一般参加者	人
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）			⑦ 成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）		単位
健康増進、体力向上を図ることができる。		⇒	ア	走ることを通じて、健康増進、体力の向上が図れていると答えた参加者。	人
			イ		
			ウ		
④ 結果（どんな結果に結び付けるのか）			⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）		単位
スポーツを通じて健康で明るい生活が送れる。		⇒	ア	スポーツを通じて健康で明るい生活が送れていると感じた人の割合	%
			イ		

（2） 指標値の推移

区分		単位	20年度（実績）	21年度（実績）	22年度（実績）	23年度（計画）	24年度（計画）	25年度（計画）	**28年度（目標）**
⑤活動指標	ア	回	1	1	1	1	1	1	**1**
	イ	回	6	5	5	5	5	5	**5**
	ウ	回	3	3	3	3	3	3	**3**
	エ								
⑥対象指標	ア	人	47,058	46,575	45,698	45,000	45,000	45,000	**45,000**
	イ	人	1,214	928	1,083	1,100	1,100	1,100	**1,100**
	ウ	人	712	475	706	720	720	720	**720**
⑦成果指標	ア	人	305	197	220	300	300	300	**300**
	イ								
	ウ								
⑧上位成果指標	ア	%	64.6	66.7	70.3	72.0	72.0	72.0	**75.0**
	イ								

（3） 投入量（事業費）の推移

区分		単位	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	**28年度**	期間限定総投入量
事業費 財源内訳	国庫支出金	千円								
	県支出金	千円								
	地方債	千円								
	使用料・手数料	千円								
	その他	千円								
	一般財源	千円	2,111	2,110	2,317	2,300	2,300	2,300	2,300	
事業費計 (A)		千円	2,111	2,110	2,317	2,300	2,300	2,300	**2,300**	0
人件費	正規職員従事人数	人	11	10	11	11	11	11	11	
	延べ業務時間	時間	200	200	715	700	700	700	**700**	
	人件費計 (B)	千円	629	629	2,322	2,273	2,273	2,273	**2,273**	
トータルコスト(A)＋(B)		千円	2,740	2,739	4,639	4,573	4,573	4,573	**4,573**	

（4） この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？

昭和54年～市民のスポーツ意識の高揚と健康増進、体力向上を図るとともに、市民並びに参加者の交流を図ることを目的とした大会として開始された。

（5） この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？

・「経費が掛かっているので参加費を徴収しては」という意見と「参加費無料で続けてほしい」という意見が半々である。
・無料にも関わらず、すばらしい運営をしている。
・種目をふやしてほしい（ハーフマラソンや女子10Km）等

事務事業名	桜川市さくらマラソン大会事業	事務事業No.	33135025	所属課	スポーツ振興課

【See】 2. 評価の部　＊原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

	評　価　項　目	
目的妥当性	①政策体系との整合性 （この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）	
	さくらマラソン大会を通じて、市民のスポーツ意識の高揚と健康増進、体力向上を図るとともに、市民並びに参加者の交流を図るという目的（意図）は、走ることを楽しみながら健康的に明るい豊かな生活を送るという結果に結びついている。	□ 見直し余地がある ☑ 結びついている
	② 公共関与の妥当性 （なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）	
	市民に走る機会を提供することにより、上記の意図、結果を生んでいく契機となっている。市民誰もが健康的に明るい豊かな生活を送るため、運動やスポーツに親しめる環境を作っていかなければならない。	□ 見直し余地がある ☑ 妥当である
	③ 対象・意図の妥当性 （対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？）	
	対象は、市民及び大会参加者であるので妥当である。 さくらマラソン大会を通じて、市民のスポーツ意識の高揚と健康増進、体力向上を図るとともに、市民並びに参加者の交流を図るという目的に合致するので、意図は妥当である。	□ 見直し余地がある ☑ 適切である
有効性	④ 成果の向上余地 （成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）	
	参加者の増加に伴い、コースの変更（見直し）や、より一層の安全確保が課題である。また、意見や要望に対して、参加者ニーズにどのように応えていくか、それにより参加者の満足度が上がると考えられる。	☑ 向上余地がある □ 向上余地がない
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 （事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）	
	大会参加に向け日頃練習している人の意欲を削ぐとともに、運動やスポーツに対して無関心な人の健康増進や体力向上について考えるきっかけ作りが失われる。	□ 影響無 ☑ 影響有
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 （類似事業や統廃合の可能性がありますか？（市以外の取り組みも含む））	
	他に手段がある □ 他に手段がない ☑ ⇒ 具体的な手段、事務事業名：類似事業なし	□ 統廃合ができる □ 連携ができる
効率性	⑦ 事業費の削減余地 （成果を下げずに事業費を削減できないか？（仕様や工法の適正化、住民の協力など））	
	実行委員会を立ち上げ大会運営の主体を実行委員会に移行し、参加費を徴収する事により報償費、需用費、委託料等の、経費削減につながる可能性がある。	☑ 削減余地がある □ 削減余地がない
	⑧ 人件費（延べ業務時間）の削減余地 （やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？）	
	実行委員会を立ち上げ、大会運営の主体を実行委員会に移行し、ボランティア活動をしてくれる人材の発掘をする事により、人件費削減につながる可能性がある。	☑ 削減余地がある □ 削減余地がない
公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 （事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）	
	現在、参加費は無料であるが、参加費を徴収するなど受益者負担を考慮していかなければならない。ただし、参加費を徴収する場合、参加費の収納管理、参加賞の作成・配布等の課題が生じてくるので、経費削減につながるのか収支バランス等について検討していかなければならない。	☑ 見直し余地がある □ 公正・公平である

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

（1） 1次評価者としての評価結果

① 目的妥当性	☑ 適切	□ 見直し余地あり
② 有効性	□ 適切	☑ 見直し余地あり
③ 効率性	□ 適切	☑ 見直し余地あり
④ 公平性	□ 適切	☑ 見直し余地あり

（2） 全体総括（振り返り、反省点）

・参加者の増加に伴い、より一層の安全の確保が課題である。また、意見や要望に対して、参加者ニーズにどのように応えていくか、それにより参加者の満足度が上がると考えられる。
・現在、参加費は無料であるが、参加費を徴収するなど受益者負担を考慮していかなければならない。ただし、参加費を徴収する場合、参加費の収納管理、参加賞の準備、配布等の課題が生じてくるので、検討が必要である。

（3） 今後の事業の方向性

□ 終了　☑ 継続 → ☑ 改革改善を行う → （複数回答可）□ 目的の再設定　☑ 効率性の改善　☑ 有効性の改善　☑ 公平性の改善　□ 統廃合ができる　□ 連携ができる
□ 廃止　□ 休止　　　→ □ 現状維持

（4） 改革・改善による期待成果
（廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上	○		
	維持			×
	低下		×	×

（3）-1 改革改善策

・参加者の増加により、安全に走行できるよう、より一層の安全管理が必要である。
・意見や要望の参加者ニーズに応えていく。
・ボランティア活動をしてくれる人材の発掘、育成。
・実行委員会を立ち上げ、大会運営の主体を実行委員会に移す等の方策を考える。
・受益者負担を考慮していかなければならないが、参加費を徴収する場合、参加費の収納管理、参加賞の準備、配布等の課題が生じてくるので、経費削減につながるのか検討していく。

（5） 改革，改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策

・警察署との事前協議を重ね、念入りな打合せを行っていく。
・意見や要望の参加者ニーズに応えることができるのか検証していく。
・スポーツボランティアの発掘、育成
・体育指導委員会、体育協会、スポーツ少年団を中心とした実行委員会の設立を模索していく。
・参加費徴収について検討。

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

（1） 課長評価

課長確認後の評価：B

A:継続（現状維持）　C:終了、廃止、休止
B:継続（改革改善を行う）　D:2次評価へ提出

（2） 部長確認及び評価 （課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）

確認欄：

（3） 2次評価における改革改善案

（4） 2次評価における指摘事項